

NPO法人 宮崎野生動物研究会

1973年（50周年！）に**野生動物の調査・研究**を行う任意団体として発足。2004年にNPO法人に。

- **アカウミガメ**の調査研究（上陸産卵・孵化調査：県・市委託）
- **ニホンカモシカ**の調査研究（文化庁、県委託）
- **野生動物全般**の生息分布調査研究 など



アカウミガメ卵の移植に関する 2021年度宮崎県説明会

はじめに

「わいるどらいふ」No.49（2020年7月15日発行）に「アカウミガメ卵の移植・稚ガメ放流会に関する提言」を載せた。その後、宮崎県教育委員会文化財課の尽力により、2021年4月22日県庁にて宮崎県内ウミガメ調査団体・行政関係者を集めた「ウミガメ連絡協議会」が開催された。過去にもこのような連絡協議会が持たれたことがあったが、近年になっては久しぶりの開催であった。この説明会の目的は、ウミガメ卵移植を伴う保護活動の各種問題点を、県内の関係者により広く理解してもらうためであった。

点が入る箱の位置がほぼ20%ずれていることが見て取れる。右側の測定点の分布を示した図で、どのようにずれているかをより詳しく見ることができる。自然ふ化のほとんどは上部に点が固まっているのに対し、移植卵では点のかたまりが50-60%くらいのところにある。

ここでは図は示さないが、2010年の全国ウミガメ協議会大会で亀崎・谷口氏が全国各地で2007～2009の3年間に調べたふ化率の結果を報告しているが、その結果でも全般的に10-20%近くのふ化率の低下を示している。



会報「わいるどらいふ」
HPよりダウンロードできます！

ウミガメを見つけたら



宮崎の海岸は日本でも有数のアカウミガメの産卵地です。産卵期になると、毎晩たくさんのアカウミガメが産卵のために上陸してきます。

詳しくはこちら

わいるどらいふ



会報の「わいるどらいふ」を発行しています。宮崎のウミガメや動物に関すること、会の活動などをお知らせします。

詳しくはこちら

宮崎のカモシカ



宮崎は日本最南端のカモシカ生息地です。九州の生息地の中心である宮崎のカモシカの現状をお伝えします。

詳しくはこちら

お問い合わせはこちら
お気軽にご相談・お問い合わせ下さい。

ブログ

- アカウミガメの卵移植・稚ガメ放流について
- 会報「わいるどらいふ」バックナンバー
- 2015年初上陸産卵

お知らせ

RSS

宮崎野生研ホームページ（HP）

～宮崎県におけるウミガメ類調査とその概要～

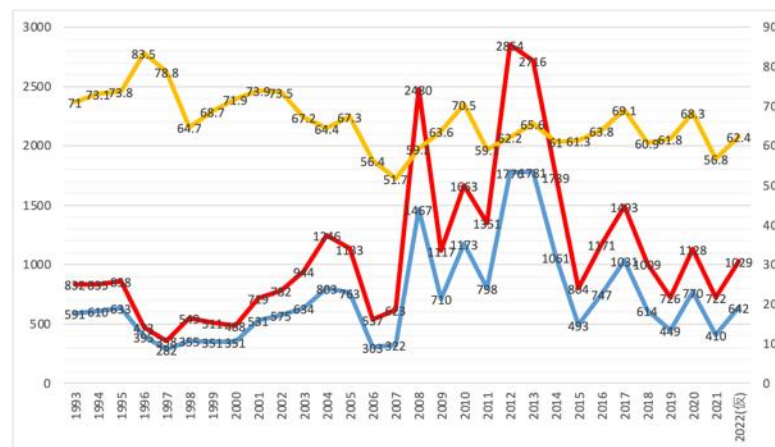
宮崎県（日向灘で観察されるウミガメ類）

- **アカウミガメ**：産卵上陸←日向灘は太平洋で2番目に大きな産卵地域
- **アオウミガメ**：若い個体が回遊？ + 今年も産卵・孵化も確認←温暖化の影響？
- **タイマイ**：希に漂着・保護

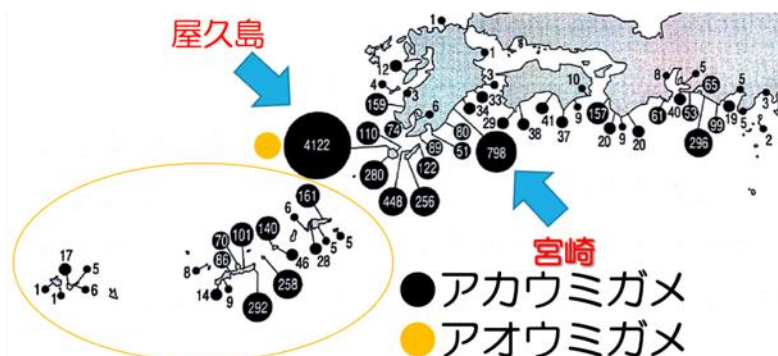


産卵行動中のアカウミガメ

宮崎県におけるアカウミガメの上陸・産卵数



—上陸数 —産卵数 —産卵率



宮崎は全国で2番目に産卵数が多い地域！
 “ウミガメの自然史” 2012

- 長期モニタリングで動態が明らかに。
- 砂浜の減少、海岸の開発・光害、台風・高波などの複合要因により減少傾向。



ウミガメと海ゴミ：身近な海の海洋ゴミ問題

世界各地から、ウミガメ類のプラスチックごみの誤飲が報告されている。

→ 身近な宮崎の海ではどうだろうか??

→ 青島・白浜海岸に死亡漂着した個体を調査 (2014-2021)



死亡漂着数

アカウミガメ：3個体 (成体)

アオウミガメ：24個体 (全て亜成体)

→ アオウミガメ亜成体 (背甲長：～46 cm)

→ 若いアオウミガメが回遊している可能性
12個体について簡易解剖調査を実施。



2017年10月 アカウミガメ (メス成体)



2020年7月 アオウミガメ (亜成体)

(西田ら 2021)

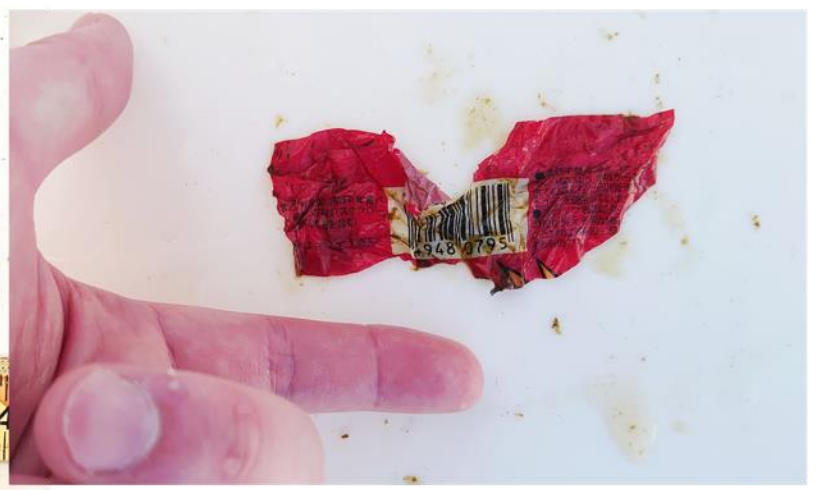


特定非営利活動法人

宮崎野生動物研究会

Miyazaki Wildlife
Research Group

12個体中6個体から、様々なプラスチックごみを検出。。。



- 地元の海でも海ゴミがウミガメ類へ影響。
- 直接的な死因とはなりにくいものの、生体へ悪い影響。
- 陸-川-海のつながりと汚染のひろがり意識する必要性。